

## TSUNAMI－新たな災害文化の必要性



広報委員 石川 清和

## TUNAMI－津波から生き延びるために

財団法人 沿岸技術研究センター  
「TUNAMI」出版編集委員会  
丸善プラネット株式会社

TUNAMI 世界共通語となった津波について本当の姿は知られてないのではないだろうか？2004年12月のスマトラ沖地震によるインド洋大津波で、津波への知識の有無が生死を分けた。いざというときのために、津波への理解を深めておく必要がある。「災害は忘れた頃にやってくる」のである。

スマトラ沖地震による津波から助かった例で

1. 英国の少女が学校で地震と津波の怖さを学んだばかりで、潮が引いて海底が露出するのを見て津波が来ると判断し、両親を通じビーチにいた人々を避難させ犠牲者を出さなかった。彼女はSUN紙から「Angel of the beach」と賞賛された。
2. スリン島では潮が引いたら山に逃げろとの言い伝えがあり、津波来襲前に島民全員が山に逃げ難を逃れた。
3. 民話の中の津波の話の思い出し、潮が引き始めたので山側に逃げて難を逃れた。

一方で津波前に潮が引き潮溜まりに魚が取り残されたのを見て、魚を取りに行ったり、遠く沖のほうから押し寄せる波を見ている津波の怖さを理解できずに逃げ遅れ波の飲まれた人々もいたのである。

津波は深い沖合いでは1～2mの波高でも、浅瀬になると10m前後にもなりうる。又島や湾の奥、複雑な地形の所では波が反射や干渉を繰り返す数10mになることもある。

波は水深によってジェット機並みの速さから、自転車のスピードと速さを変える。また海

岸、島などにより屈折、反射を伴うため、津波は数十分から数時間続くこともある。

津波は普通の波とは違い押し寄せる水流となる。陸でも川や道路は早く流れ、宅地や林は流れが遅いため、海側からだけでなく陸側からの水流となることもある。

津波に巻き込まれた人は、おぼれるよりも津波の漂流物での打撲によって死亡するケースも多い。

震度が小さい地震でも持続時間が1～2分と長いと大きな津波を引き起こす可能性がある。

震源までの距離によって津波の到着時間が異なるため、経験による判断や津波情報が役に立たないことがある。奥尻島では1983年の津波は地震後17分で、1993年は地震後5分で津波が襲来したため逃げ遅れた人が多数出たという。

津波は地すべりの起こり方によっては引き潮からでなく、押し波からおしよせることもある。津波は潮が引いてから逃げろでは逃げ遅れることもある。

津波は一生に一度、いや合わない可能性が高い。しかも体感する地震の揺れや、マグニチュード、地形、兆候、言い伝えなどから津波の大きさを完全に予測し、避難することは不可能に近い。しかし、そのときの状況を適切に判断し、瞬時に行動する災害文化を確立することで被害を最小限にとどめることが可能である。

